

講座③アナウンス原稿の書き方

私の原稿、直してください！

松浦高等学校放送部 吉田 博利

■はじめに

昨年に引き続き、アナウンス原稿の講座です。アナウンスの生徒の中に読み自体は下手ではないのに、何か物足りなく感じる生徒がいます。その原因はどうやら原稿にあることが少なくないようです。また、自分の学校の生徒を指導するときに、原稿の手直しがうまくいかないことがあります。顧問自体が題材を知ってしまっているがゆえに迷路にはまる（長崎では「ねまる」と言います）こともよくあるようです。

そんな問題意識から、去年、原稿の書き方や直し方を一緒に考えてる講座を担当しましたが、去年は時間が短く、「物足りない」という声をいただきました。今年は時間を拡大しましたので、思う存分？原稿について一緒に考えていきましょう。

■NHK杯全国高校放送コンテスト審査基準

【アナウンス部門 審査基準】

(1) 研究主題「私たち高校生と放送」のテーマに沿った内容となっていること。

(2) 自校の校内放送に使用する内容でなければならない。

(3) 審査の視点

a. 内容

(ア) 素材の選び方は適当であるか。

(イ) 文章表現は適当であるか。

b. アナウンスの技術

(ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。

・発声 ・発音 ・マイクの使い方

(イ) 正しく意味を伝える表現ができているか。

・内容把握 ・イントネーション ・言葉の立て方（プロミネンス） ・アクセント

(ウ) 間（ポーズ）は適切か。

・テンポ ・ポーズ

(4) 点数は100点法とし、aとbの項に留意して総合的に採点する。

■アナウンス原稿の基本

「よい原稿」のための要素

◆テーマ（ネタ）

- ①ネタの鮮度、発見があるか、説得力があるか、臨場感はあるか。
- ②高校生の知性・感性あふれるテーマか 世界・社会の現状にかなった内容か。
(校内の小さな事が、世の中の大きな事につながるとベター)
- ③校内放送の内容であるか（自校生徒ならわかりきった内容ではないか）。
- ④誰に向かって伝えるニュースか。個人的すぎる内容ではないか。
- ⑤自分にとってのニュース性が、聞いている人のニュース性につながるか。
- ⑥通して聞いた後、何のニュースなのか印象に残らないようではダメ。

◆取材

- ①取材が徹底してなされているか。具体的・主観的に取材する。(原稿は普遍的・客観的に！)
- ②自分の問題意識で取材したか（リアリティ・説得力につながる）。
- ③事実、伝聞、自分の意見の区別は明確か。

◆構成 ～基本的にドキュメント番組と同じ。

- ①「正確」で「わかりやすく」。「親しみやすく」
- ②原稿の構成要素－5W1H（いつ・誰が・どこで・なにを・なぜ・どのように）
- ③見出しをつける・最初の2文目までにはテーマがわかるように（要約文的に）。
- ④何を伝えるか。結論・結果を先に。構成をすっきりさせる。大切な項目から順に並べてもよい。
- ⑤係り受けを単純に。構造を複雑にしない。（起承転結など）。
- ⑥焦点を絞る（伝えたいことはひとつ）。余分な情報を選別し、思い切って捨てる。
「あった方がいい」程度の情報は捨てる（なくても伝わる）。

◆言葉・表現の工夫

- ①話し言葉で（漢語は避ける）ただし俗語・流行語・略語・隠語は避ける。
- ②ひと文は短く。つなぎことばを有効に使う。
- ③指示語は最小限に。
- ④情報は具体的に。色やにおいなどイメージまで伝わるとベター。
- ⑤キャッチーな言葉が浮かぶとよい。大事な言葉は最初と最後で繰り返してもよい（多用はダメ）。
- ⑥説教臭・上から目線は聞く人に共感をもってもらえない。
- ⑦「絶対に」「本当に」など主観的でおおげさな言葉は避ける。(原稿は普遍的・客観的に)

◆音の工夫

- ①音で伝わるか（伝わりにくい語は避ける。同音異義語など。「後日」は「あした」）。
伝わりにくい場合、言い換えや繰り返しを使ってよい。
- ②読みにくくないか（体言止め・語りかけ）。意味の切れ目で息継ぎできるか。
- ③読み手が読みにくい音は避ける。
- ④同じ文末表現は避ける。